

令和3年度 「みえ現場 de 県議会」 ～コロナ禍からの復興に向けて～ 実施概要

1 日時・場所 令和4年2月7日（月）13時30分～16時00分
くわなメディアライヴ 多目的ホール

2 テーマ 「コロナ禍からの復興に向けて」

新型コロナウイルスにより多くの業種がさまざまな影響を受け、地域経済は大変厳しい状況にある中、私たちは今後、警戒を緩めることなく、暮らしと経済を復興していくことが求められています。

そこで今回は、「コロナ禍からの復興に向けて」をテーマに、新型コロナウイルスにより売上げが減少するなどの影響を受ける中、ウィズコロナに対応したビジネスモデルの構築や販路開拓など、復興に向けて知恵と工夫を凝らし、懸命に努力されている方々等と意見交換を行う「みえ現場 de 県議会」を開催し、今後の議会での議論に反映させていきます。

3 参加者等

○関係者の方

6人

《製造業》

- ・株式会社 水谷精機工作所 代表取締役社長 みずたに やすあき 水谷 康朗 氏
- ・有限会社 伊藤鉦鋳工所 げんちゅうこうしょ 代表取締役社長 いとう まさかず 伊藤 允一 氏

《飲食サービス業》

- ・株式会社 船津屋 ふなつや 取締役会長 はやし たかひこ 林 孝彦 氏

《小売業》

- ・いきものクッキー専門店 クリマロ コレクション kurimaro collection
- 株式会社 クリマロ 代表取締役社長 くりた 栗田 こずえ 氏

《首都圏で生活する三重県出身の学生・社会人》 ※オンライン参加

- ・東京大学 経済学部4年生 (伊勢市出身) ほしあい ゆうすけ 星合 佑亮 氏
- ・株式会社 VALCREATION ヴァルクリエイション 勤務 (松阪市出身) まつもと たくや 松本 拓也 氏

○県議会議員（下線は広聴広報会議委員）

13人

議長 青木 謙順 座長(副議長) 稲垣 昭義
 総務地域連携デジタル社会推進常任委員長 森野 真治
 戦略企画雇用経済常任委員長 野村 保夫
 委員 谷川 孝栄 委員 山本 里香 委員 田中 智也
 委員 山崎 博 委員 山本佐知子 委員 石垣 智矢
 委員 平畑 武 委員 中瀬 信之 委員 喜田 健児

○Zoom 傍聴者

34人

4 プログラム

- 1 参加者の紹介
- 2 「組織プロフィール」「状況シート」の説明
- 3 意見交換
- 4 閉会あいさつ

5 主な意見等

《コロナ禍の現状、今後の展望や課題等》

- (1) 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され、解除される。これの繰り返しが何度もあり、飲食店はその度に時短をし、お酒を止め、正直いつまで続くのかという思い。非常に苦しい状況が続いている。
- (2) コロナ禍でも誰一人取り残さず雇用を守ると最初に決めた。休業支援金などを使い、社員には働き方を抑えてもらい、あらゆる策をとってなんとか雇用を維持している。
- (3) 全盛期に 200 社以上あった鋳物屋さん今 20 社を切っている。コロナで企業の設備投資も減り、注文が少なくなっている。さらに鉄材の値が上がり、これまで頼っていた外国人実習生もコロナで入国できないという厳しい状況である。取引先に値上げ交渉も行っているが、海外からの輸入に切り替えるところもあり、先が見えない。そのような中、緊急事態宣言でジムに行けないが、当社で製造しているケトルベルは自宅でトレーニングできるということで、売り上げがコロナ前の 10 倍になった。今も高水準で推移しており、助けられている。
- (4) ブライダル事業も非常に厳しい。最初は延期、延期。延期してもコロナが収束しておらず、やむを得ずキャンセルされるお客さまも多い。こちらとしては、パーティーとか換気とか、感染防止対策を徹底したうえで、「少人数でやりませんか」とか「写真撮りだけやって、コロナが明けたらまたお友達を呼んでやりませんか」など、さまざまな提案を行っている。最近では 10 名、20 名規模の結婚式が増えてきた。
- (5) クッキーの売り上げの 8 割がイベントでの販売だったが、コロナですべてストップした。これからどうしていこうかと考え、今できた時間で何ができるか、コロナ明けに向けどんな準備をしておくべきか、考え方をそこに切り替え、お店も移転した。
- (6) 今は、委託販売を伸ばしているが、「生き物の魅力を伝える」クッキー屋さんというお店のコンセプトに共鳴していただける企業さまとタグを組みたいと思っている。一方で、コロナだからと委託販売や卸販売を集中的に増やすと、今、コロナ禍にある水族館や動物園などの観光業がコロナ明けに跳ね上がったとき、こちらの製造が耐えられなくなってしまう。その辺のバランスも考え、体制を整えておくなどしっかり土台固めをしておくことが最優先だと考えている。
- (7) 飲食業の休業への協力金は一律いくらという支給でよいのか、費用対効果はどうなのか、など思うが、言われたとおりお店を閉め、20 時までの営業としている。
- (8) 多くの飲食店が、政府主導で行われている、利子をこの時期まで待ってあげますという実質無利子の融資を金融機関から借りていると思うが、すでに 2 年ほど経ち、そろそろ利子を支払わなければいけないところがでてくる。そのときまだコロナだと、はたして返せるのか。飲食店が無くなってしまわないか心配である。

- (9) タイミング的に外れてしまった支援金もあるが、今出ている補助金を使わせてもらったり、三重県産業支援センターにお願いしたり日々助けていただいている。
- (10) 取引先に値上げ交渉するが全部飲んでもらえるわけがない。かといって損してはできない。消費者が理解し、それなりの値段で買ってもらえるといいが、皆安いものばかり買う。その根本的な解決には時間がかかるのかなと悩んでいる。
- (11) コロナ前まで桑名工業高校の生徒をインターンシップとして受け入れてきた。暑い中、重たい物を持って苦労体験をすることに価値が無いとは思わないが、座学も必要。鋳物のことをきちんと知り、それを現場で試す。教育としてのインターンシップを大人もシステム化する必要がある。しっかり学んで体験できるよう、企業側の準備も必要。改善したいと思っていたところ、コロナになってしまった。
- (12) 実際に機械を作った経験をお持ちの学生さんは、やはり製造現場に馴染みやすいと思う。しかし、普通科や文系の学生が勤まらないということではなく、本人のやる気があれば、すぐに工業高校の子には追いつくので、会社に来て学ぶというつもりで来てもらえばいい。工業高校は、教科書以外でいろいろものづくりに携わるような時間を作ってもらえると、社会に出てすぐ会社になじめると思う。
- (13) 会社を大きく大企業にしかったかという、そうでもない。地元に着してやれることをやっというコンセプトでこれまでやってきた。大企業は福利厚生も手厚いが、リーマンショックやコロナになったとき、維持できるかという踏み込めない部分もある。
- (14) リモートマイスターの開発など大企業がやらないニッチなことをできるのは中小企業ならではの、オーナー企業だからできることだと思っている。雇われ社長だったら、上からの評価で費用対効果を言われ、やっていない。そういう意味では、中小企業が今後不要だとは思わない。中小企業としてやるべきことを続けていきたい。
- (15) 今、桑名市の小中学生は、VRの技術で、iPadをかざすと床から人体模型が出てくるという体験をしている。そういうのも中小企業ならではの、大企業があまりやっていない分野だと思う。
- (16) 桑名の、特定の部品を作るのではなく、いろんなものを作ってきた鋳物屋さん、そういう一番厳しいところが、コロナで特に表面化している。
- (17) 小さな鋳物屋は、設備を統合して一緒にやっていかないと効率が悪い。例えば、桑名鋳物の名のもとに連携してやっていくとか、そういう横のつながりがないと10年先はゼロになってしまう。後継者がいないところは引退しやすいよう、もしくは小さいところ同士のM&Aを行政や金融機関が支援し、少しずつ会社を大きく効率よくしていくという生き残り方が現実的なのかなと思う。
- (18) 各種の支援金を利用させていただいた。コロナ貸付は対銀行なので非常にスピーディに対応してもらった。一方、雇用調整とかになると下りてくるまでにいつまでかかるのかと、最初は資金繰りで苦労した。
- (19) 飲食店だけがもらっているお金は、なぜ飲食店だけなのか。飲食店だけの施策になっている。もっと風下の第一次産業とか、それに関わるすべての皆さんに、不公平感はあるのかなと思う。
- (20) 三重県独自のコロナ対策の補助金も使わせていただいた。補助金にはいつまでにやらなければいけないという締め切りがある。自分にプレッシャーをかけ、製品を実用化させることができたので非常にありがたかった。

《東京での暮らし、「みえフェス」の活動、「三重テラス」の活用等》

- (21) コロナ禍で若者の孤立が顕在化しているのは、特に大学1年生、2年生だと思う。三重県から単身で東京に出てきて不安な中、大学の授業はオンラインで友だちもできないという声をよく聞く。
- (22) オンライン授業は学びの質は落ちるなという実感はある。自分で座学でやるのと、友だちとああでもないこうでもないと話しながらするのは、かなり質的な違いがある。
- (23) 「みえフェス」では、三重県出身で首都圏在住の若者の交流会をこれまで20回ほど開催してきたが、コロナで対面で集まれなくなった。東京ではオンラインイベントは乱立している。あえて選んで参加してもらおうという、オンラインイベントを主催する難しさ、特に大学1年生、2年生の新しいメンバーにSNSで訴求する難しさを感じている。
- (24) 既に三重県から東京に出てきた人たちに訴求するのは難しい。東京に進学や就職する前の段階で、行政が「三重テラス」や「みえフェス」の存在を周知してもらえるとありがたい。
- (25) 今後も東京で三重県とのつながりを持っていきたい。東京に出てきた若者たちを受け入れ、つなぐ、プラットフォームのようなものを醸成していきたい。
- (26) ベンチャー企業で、セミナーや勉強会などの教育事業を定期的に行ってきたが、コロナで全く開催できなくなった。そこで、Zoomを活用した勉強会にシフトチェンジし、それまで週に1回ほど東京で行っていた勉強会を、今では多くて週に3回、日本全国、海外ともつながり、学びの場を作ることに成功している。コロナが、良い意味でも悪い意味でも大きな変化をもたらすきっかけとなった。
- (27) 大学生の頃から、東京にいても三重県とつながっていたい、東京にいるからこそ、三重県のためにできることをやっていきたいと思っていた。そんな中、「三重テラス」やそこで行われているイベントの存在を知り、参加するようになった。そして、「みえフェス」の存在を知り、最初は参加者だったが、いつしか運営する側になった。
- (28) 「三重テラス」は非常にありがたい存在。東京にいながら三重県とつながってられる。しかし、その存在を知らない人も多い。「何か困ったときには三重テラスに行く」みたいな活用がされるとよいのではないかと思う。
- (29) 「みえフェス」の運営はボランティアだが、社会人の方々の支援も受けながら運営しているので、苦勞なく楽しくやってこられた。一方、コロナ禍で、「みえフェス」の次世代の育成、代替わりして次に担っていく学生や社会人の後継者探しに苦慮している。
- (30) 「みえフェス」という任意団体の情報を、高校生にダイレクトに届けるのはなかなか難しいと思う。高校単位での、東京支部の同窓会というものがあると聞いているが、そういう情報が、行政のお力もお借りして可視化されると、そこに連絡すればいろんな方とつながれるみたいなきっかけになるかなとも思う。
- (31) コロナ禍で困っている学生のために、物資支援のイベントを「三重テラス」で開催していただいたときは、一人じゃないんだという横のつながり、三重県の方々に物資を送っていただくという縦のつながりを実感できた。

令和3年度 「みえ現場 de 県議会」
～コロナ禍からの復興に向けて～

アンケート結果

○当日の参加者 53人

《内訳》・意見交換参加者 19人（関係者6人、三重県議会議員13人）

・Zoom傍聴者 34人

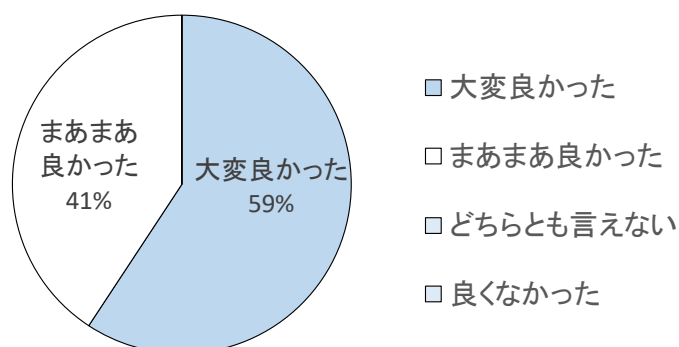
○アンケート回答者 27人

《内訳》・意見交換参加者 16人（回答率 84%）

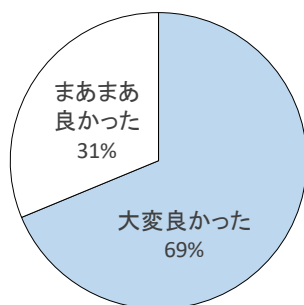
・Zoom傍聴者 11人（回答率 32%）

Q1 本日の会議の感想をお聞かせください

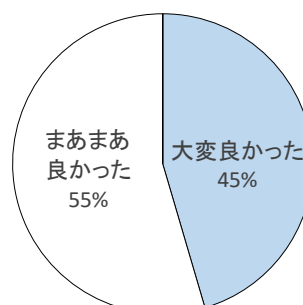
全体（意見交換参加者＋Zoom傍聴者）



（意見交換参加者）



（ZOOM傍聴者）



Q2 本日の会議について、お気づきの点がございましたらご記入ください。

- Zoomであることの周知ができていれば、もっと有効だったかと思います。
コロナに関係なく Zoom でもよいかとも思います。
- 進行もスムーズで問題なく楽しめました。
- 異業種のコロナ禍での悩みや課題がわかり、共有できる部分も多くあった。
なかなか話を聞けないデリケートな部分でもあるため大変勉強になった。
- 進行はとてもスムーズで全員の発言もあり良かったです。“核心にせまりたい”そこはやはり難しかった。
- 内容的には良かったと思いますが、どうしても質問調になってしまう感が否めない。
- もう少し時間があれば深い議論ができたような気がします。
- 新たな会議！ ゆっくりと大きな声でトーク！ マイク無しで！
- 声が聞き取りにくかったときもある。
- 調節いただきましたが、それでも少し音声聞き取りづらい箇所がありました。お一人お一人の発言時間が少し長いかなと思いました（制御するのは難しいと思いますが…）。
- 冒頭、状況シートや組織説明資料をもとに自己紹介をそれぞれ5分間させていただき、その後はシナリオのないディスカッションで非常にライブ感があり良かったと感じた一方で、どのような発言を求められていたのか、皆さまが知りたいと思っていたことについてどこまでお答えすることができたのかについて、終わった今、不安なのが正直なところです。また、オンライン参加であったため、現地の皆さまと名刺交換などさせていただけなかったことは、とてももったいない、残念だと感じました。
- 桑名の地元企業が、どんな苦勞をしながら努力されているかはよく分かりました。それに対して県議会がどのように応えていこうとしているかは、正直言って、あまり伝わってきませんでした。意見交換のほとんどが議員からの質問に対する企業人等の応答になっていて、これならば、「現場」でなくても議会内に参考人等呼んで議員勉強会としてやればいい内容ではないか、と感じられました。「現場で」というならば、主として桑員地域の諸課題について、問題意識を持っている県民等からの質問や意見に議員が応えるような進めの方が、より実のあるものになったのではないかと感じました。
- オンラインでは、やはり聞き取りにくいところもあった。
- Zoom参加者の発言が少なかったように感じるので、積極的に話を振ってもよかったように感じます。
- ときどき聞き取りにくいことがありましたが議論をリアルに聞くことが出来てとても興味深かったです。

- 桑名の事業者の声がとても良かった。学生・社会人は、桑名かせて北勢地区出身者にしてほしかった。
- 現場で困っているリアルな声を聴いていただけたように感じます。具体的に何をどうしてほしいという意見がたくさんあってよかったと思います。
- いろいろと本音の部分などお聞かせ頂けたのは貴重でした。一部音声が届きづらな場面もありましたが、概ね問題なく視聴することができたと思います。
- オンライン参加のお二人の意見を拝聴し、
 - ① 三重テラスを、三重県内の高校を卒業して進学や就職を東京方面にされた皆さんの居場所づくりに貢献できることや、スペースに県内企業のPRも可能ではないかと気づかされた。
 - ② 県内高校を卒業する際に「三重テラス」や「みえフェス」の連絡先や内容を表示した「お守りカード」等をプレゼントできないか考えた。
- 技能実習生の件について、私は普段、外国人側の意見を支持しているのですが、企業側の意見を聞いて良かった。また、補助金の件について、少し意見させていただきたいことがある。三重大学では、一人暮らしの学生に健康的な食事を安価で提供するはずの大学生協が昼のみ営業になっている。その点で大学生協にも補助金を提供するのも一つの手ではないかと考える。
- よかった。

Q3 今後の「みえ現場 de 県議会」の在り方やテーマなどについて、ご提案などございましたらご記入ください。

- 教育格差について
- 第一次産業への支援など
- 人口減少問題
- コロナ禍の現状を更に追及していただきたいです。
- デジタル化の意義と可能性について
- デジタル・トランスフォーメーションやカーボン・ニュートラルなど、社会を大きく変わっていく中で、産業政策・人材育成・就労支援・社会的弱者支援等はこれからどう変わっていく必要があるのか。次の三重県をどう作っていくのかという視点で、県民と県議会がよりつながっていくようなイベントになったらいいと思います。
- 【定住、移住】人がそこで暮らし続けたい条件とは！（利便性？美しい町並み？自然環境？働く場所がある？・・・等）
- DX化について（デジタル化ではなく）
- 外国人労働者や留学生の方を中心に三重県在住外国人をテーマにしてみたいかがでしょうか。外国人の方にも今回のように登壇していただけたらいい話し合いになると思います。

- 現状で良いのではないか。
- 桑名の現状が議論され、活発でためになった。
- 普段、会社の中での世界で動いているため、外に目を向け考えることができてよかった。これを機会に今後も前向きに進んでいきたいです。ありがとうございました。
- 今回の実施方法は、今後のウィズコロナの世の中であっても有効な方法であると思った。現場とオンラインを上手く活用して、多様な立場の方との議論はとても中身の濃いものになっていくと思う。
- 基本的に、今回は議員の皆様から現状について参加者へ質問がメインでしたが、各議員の方々が普段どのような取り組みをされていて、また今回の機会が今後どう活かされていくのか、その辺りが不透明な感じがしたので、より意図的に取り組んでいくとさらに良い機会になるのではないかと僭越ながら感じました。逆に、議員の方々の今回のイベントに対しての評価、コメントを拝見することができるのであれば、そのような情報も開示いただけますと幸いです。
- 時間が長すぎる。90～120分にして、3ヶ月に1度程度で、三重県内各地区で実施すると良い。
- 経営者だけでなく、外国人や学生などでメンバーを構成して行ってほしい。
- オンラインでの開催のためにマイクなしとのことでしたが、聞きづらい場面もありました。今後もさらに整えて頂ければと思います。
- 特にありません。ありがとうございました。
- 毎年でも来ていただきたいです。